



根堀台だより

平成29年7月24日

第 43 号

校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

明日から夏休み この4ヶ月の成長を糧に



今年度「二期制」でスタートした由利中学校ですが、明日から夏休みを迎えることとなります。いつもなら今日は終業式となり、子どもたちが「通信簿」をドキドキしながら家に持ち帰るのですが、今年から「通信簿」は10月の前期修了式の日となります。中には左記のイラストのように、「長い夏休みの前に通知表がなく、何を目標に勉強してよいのか戸惑う子どもがいるのではないか。」という不安をもたれる方も実際にいるのではないかと思います。

子どもたちの成長ぶりについては、「三者面談」の場で詳しく学級担任から報告があったと思います。また、夏休みが終わるとはすぐに「休み明けテスト」と「前期期末テスト」

がやってきます。つまり、夏休みを「テスト勉強期間」と捉えれば、じっくりと「テスト対策」に取り組めることとなります。学校でも指導しますが、ご家庭でも是非この2つのテストを目標にして頑張るよう励ましていただきたいと思います。

さて、この4ヶ月を振り返ってみると「あっという間に夏休みになった」という気がします。特に年度のスタートが土日で始まったこともあって、わずか2日間の準備で始業式と入学式を行う大変慌ただしい出発となりました。また、春季大会と運動会を同じ週に行うという離れ業もありましたが、子どもたちは限られた時間の中で準備も含めよく頑張ってくれました。5月の連休明けから陸上練習に取り組み、2週間ちょっとで本番まで仕上げ、入賞も果たすことができました。6月は県PTAの表彰から始まりました。出張所長訪問や山形県や箕面市からの訪問、第1回指定校訪問など、子どもたちの学習の頑張りを見ていただく機会も沢山ありました。そして地区総体ではもてる力を全て出し切る姿がありました。7月は吹奏楽の中央地区大会金賞、全県総体出場など、由利中生の「文武両道」の姿を示してくれました。このように沢山の行事がある中、子どもたちがしっかりと日々の学習に取り組む姿から、由利中の教育目標「自ら学び 心身を鍛える 感性豊かな生徒の育成」に着実に迫ってきていることを実感しています。

しかし、心配なこともあります。今年は自転車での事故や怪我がいつもより多く見られました。自転車に乗る際は交通ルールを守るだけでなく、「危険回避」のために「予測する力」も身に付けなければならないと思います。十分注意させたいものです。

明日から始まる夏休み。96名の子どもたちが健康で、安全に、有意義な生活ができますよう、ご家庭でのサポートと地域からの応援をよろしく願います。

夏休み前集会でのお話

ここに1枚の写真があります。映っているのは誰でしょう？これは大学生の時の私です。そしてこれは留学試験の受験票の写真です。普通受験票は試験の際、監督員が回収しますが、何故かこの1枚は今も私の手元にあります。

当時私には、大学卒業後も研究を続けたいという夢がありました。そのためには「留学」と「大学院」という2つの選択肢がありました。そこで自分の夢を叶えるために、大学の2人の先生にお願いをし、時間割にはない自分だけの「特別授業」を行って貰い、私のプロジェクトは順調に進んでいました。

そして試験前日の午後9時頃、試験の準備も終わり今晚は早めに休もうとしていたところ、思いもよらぬ一本の電話がかかってきました。それは「父が倒れ、秋田市の脳血管センターに救急車で運ばれ、これから急遽開頭手術を行わなければならない」という母からの緊急電話でした。

私が秋田に着いた時はすでに夜が明け、手術も終わっていました。ベッドには意識も無くただ眠り続ける父の姿がありました。結局、私は試験を受けることはできませんでした。何とか父の一命はとりとめたものの、父には右半身不随と言語障害という大きな障害が残りました。父はもう働くことのできない体になってしまったのです。

そんな状況の中、ともかく大学だけは自分の力で卒業して、就職しなければならない。自分の生き方を変える大きな契機となりました。そして、卒業間近には私は仙台のテレビ局から採用の内定を頂いていました。しかし、父の介護など家族のことを色々考えた末、結局テレビ局を断り、私は秋田に戻ることに決めました。その結果、今私は「教師」としてここにいます。「教師」という職業も、私にとっては「なりたい自分」でありました。

時には、「もしあっちの道に進んでいたら…」と思うこともありました。でも、人はあれかこれかという時、結局ひとつしか選べないことが多いものです。その時その時、つねに最善の道を選んできたのだから、自分が選んだ今の道が正しかったと信じています。

そしてあの時「留学試験」をあきらめたことは、父にも、母にも、今まで一度も言わないで済みました。子どもが夢をあきらめることは親にとって本当に辛いことだからです。でも、この受験票は使うことができなかったけれど、あの頃自分が一生懸命夢に向かって進んでいた証として、これからも大切にしていきたいと思っています。

さて、由利中学校は「夢あきらめない」学校です。でも夢を実現させることは、多くの場合非常に難しいものです。すべての夢が実現するとは限りません。私自身も確かに留学はできなかったけれど、これまで仕事で沢山海外に行く機会がありました。そうやって夢が部分的に実現することがあったり、まったく他の夢に変えざるを得ないこともあるのです。

また、人生には「成功」と同様に「失敗」や「失望」もあります。人生には壁が立ち足るものです。夢に到達するまでに困難に耐えなくてはならないのです。全く予期しなかったことがおきることだってあるのです。さらに、人との出会いや経験を通して、夢が大きく変わることだってあるのです。ただ、言えることは、自分の未来に思いを馳せ、前向きな姿勢で常に希望や夢をもつこと、何が起ころうとも、何処に行こうとも、何になろうとも、この夢をもつというプロセスが大切なのです。夢を追い続け、様々な予期しない困難、落胆や失敗を経験しても前に進めるのは、やはり夢があるからなのです。夢を追うことは、長い人生において極めて貴重な経験となるのです。

「ひとつの夢を追い続ける」生き方は確かに「夢あきらめない」生き方といえます。誰もがそうありたいと思います。でも、誰もが必ず夢が叶うわけではありません。夢が叶わず、夢が変わってもいいのです。大切なのは「夢をもつことをあきらめない」生き方です。これもまた、「夢あきらめない」生き方といえるのではないのでしょうか。

3年生の皆さん。この夏休みは、皆さんの夢である「来年4月の自分の姿」を強く意識して生活してみてください。あと丁度250日後の自分の姿です。そう考えればこれから250回続く毎日の積み重ね、1時間の重さ、1分間の集中の大切さが分かってくるはずですよ。苦しい時こそ、夢を思い出して頑張りましょう。

2年生の皆さん。職場体験活動「なりたい自分を目指す14歳の挑戦」を契機に一回り成長しましょう。大人の社会で過ごす5日間は本当に厳しいけれど、きっと皆さんを変えてくれると思います。職場で会った大人の人たちから多くのことを学んできて下さい。何より自分から変わろうとする事が、成長につながるのです。

1年生の皆さん。小学生の頃、計画的に夏休みを過ごせましたか。できなかった人は同じ失敗を繰り返さないよう、「自分は去年と違う中学生なんだ」という気持ちを持ち、2・3年生の姿を参考にして、自分も「なりたい自分」を見付けることを目指して下さい。

それでは8月24日の朝、それぞれが自分にとって本当の「なりたい自分」を見付け、「夢あきらめない」で「なりたい自分」に近づくことができた君たちに出会うことを心から楽しみにしています。

健康に気を付け、事故無く、沢山のことを学び、有意義な夏休みを過ごして下さい。全員元気に会えることを願っています。